



日ごろの観察の成果！ オオトラツグミがオキナワキノボリトカゲを食べることを 小学5年生が発見 脊椎動物の捕食の確認は初めて

- ・ オオトラツグミがオキナワキノボリトカゲを食べる現場を観察しました
- ・ オオトラツグミの採食現場の観察は少なく、脊椎動物の捕食は初めての確認です
- ・ 観察したのは小学5年生（当時）、日ごろから行っている自然観察の成果です

奄美市立赤木名小学校5年生（当時、現薩摩川内市立川内中央中学校1年生）の肥後雄大さんが、奄美自然観察の森で野鳥観察中に、オオトラツグミがオキナワキノボリトカゲを食べる現場を観察しました（図）。オオトラツグミは近年個体数が増加し、今年3月の環境省レッドリストの改訂で絶滅危惧種から外れましたが、観察は容易ではなく、食性等の生態はよくわかっていません。今回の観察でオオトラツグミが脊椎動物を食べることが初めて確認され、本種の食性の解明に大きく貢献しました。

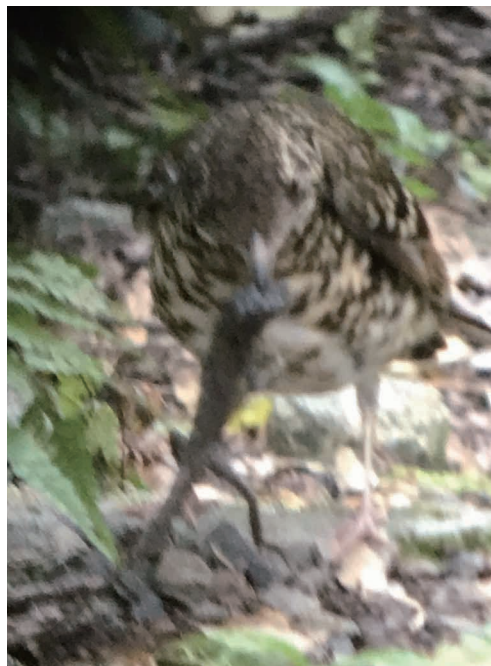


図 オオトラツグミによるオキナワキノボリトカゲの捕食。食べられている生物は、頭部が大きくて幅が広く、四肢がよく発達している点で同所的に生息するトカゲ亜目の他種と明瞭に異なることから、オキナワキノボリトカゲであると判断した。2025年2月24日、肥後雄大撮影。

1. 背景

オオトラツグミはユーラシア大陸に分布するミナミトラツグミの亜種で、奄美大島のみに生息しています。近年個体数が増加し、環境省レッドリストでは絶滅危惧種から外れ、保護増殖事業も完了することが決まりましたが、その生態はわかっていないこともたくさんあります。本種の食性については、ミミズや節足動物、植物の実などが確認されていますが、採食現場の観察はまれであるため、把握されている採食メニューはその程度でした。本種の保全を考える場合、生存に必要な食物資源を把握し、その資源が豊富にある環境を確保していくことは重要であると考えられます。

2. 研究の内容

肥後雄大さんは日ごろから鳥類をはじめとする生き物の観察を行っています。2025年2月24日に奄美自然観察の森でオオトラツグミを観察中、その個体が地面にいるオキナワキノボリトカゲを捕らえ、食



公益財団法人 山階鳥類研究所

べる現場を目撃しました（図）。獲物を見つけてから丸のみにするまで観察を続け、その所要時間は10分程度でした。ミナミトラツグミ（オオトラツグミと同種、亜種が異なる）や近縁種であるトラツグミでは小型の脊椎動物を食べることが確認されていますが、オオトラツグミが脊椎動物を食べる現場を確認したのはこの観察が初めてです。

3. 今後の展開

オキナワキノボリトカゲは沖縄諸島と奄美群島に分布しており、名前が示すとおり木に登ることのできる爬虫類ですが、冬季は林床の枯葉の下や木の根の間などに潜り込んで静止している個体もいます。今回オオトラツグミに捕食されたのもそのようにして冬を越していた個体と考えられます。奄美大島には同じトカゲ亜目でより地上性傾向の強い種も生息しているので、オオトラツグミによる脊椎動物の捕食は、知られていないだけで潜在的にはもっとあるものなのかもしれません。本種の食性をより正確に把握し、好適な生息環境を確保するために、今後も観察を継続することが重要であると考えられます。

論文情報

タイトル：奄美大島の固有鳥類オオトラツグミによるオキナワキノボリトカゲの捕食

著者：肥後雄大、水田拓

掲載誌：山階鳥類学雑誌第58巻第1号、2026年6月30日発行

DOI：doi.org/10.3312/jyio.58.75

この件についてのお問い合わせ先：

公益財団法人 山階鳥類研究所

千葉県我孫子市高野山115

電話：04-7182-1101

担当：広報 山岡（Eメール：pressrelease@yamashina.or.jp）

・写真のデジタルデータをご希望の方もお問い合わせください。